



- 【会社概要】
- 名称 株式会社植田製作所
 - 所在地 〒808-0027 北九州市若松区北湊町 4-1
 - 電話 093-761-1431
 - 設立 昭和 21 年 12 月
 - 代表者 濱小路 兼生
 - 業種 産業機械設計・製作
 - URL <http://www.ued-mfg.co.jp/>



圧延ライン用テンションリール (写真左)
大型歯車 (写真下)



本社工屋

金属加工に欠かせない テンションリールのトップシェアを誇る 株式会社 植田製作所

圧延された鋼材を巻き取るテンションリールと、巻き戻すペイオフリールの国内シェア80%を誇り、他の追随を許さない高い技術力を誇っているのが植田製作所である。近年は、中国、韓国、東南アジアなどからの受注も増加している。その技術力の秘密の一端を濱小路兼生社長に伺った。



濱小路社長

社長就任10年、 創業70年の節目を迎える

家電や飲料缶、自動車のボディ、住宅やビルなどに使われる金属材料は、アルミニウム、ステンレス、鉄など、その材質にかかわらず「圧延」によって薄く延ばされた板状の金属を加工することによってつくられる。この板状の金属をリール状に巻き取る機械がテンションリール（鋼板巻取り機）で、巻き戻す機械はペイオフリールと呼ばれる。

通常この両機は一对で使われ、金属加工にはなくてはならない工作機械である。このテンションリール・ペイオフリールの国内シェア80%を誇り、その優れた技術力で高い評価を得ているのが植田製作所だ。

当社の前身は明治23年、大阪市で創業した植田歯輪工場。歯輪とは歯車のことで、昭和21年に(株)植田歯車工場として当地若松区に移転、昭和34年に(株)植田製作所に商号を改めた。

濱小路兼生社長は昭和43年に入社して50年。社長に就任し

たのが平成18年で、ちょうど10年、会社も創業70年を迎える。

「元々私の母が創業者の植田昌次氏と知り合いました。学校卒業後、別の会社で新車販売に従事して、1年半ほどで植田製作所に入社しました。ですからずっと営業畑なんです」

その感覚を生かし、社長就任後、社員の意識改革に取り組んできた。毎朝社員全員で社訓を唱和している。その際当番となった社員が日々の雑感をスピーチする。技術者であっても人とのコミュニケーションが大切であるという思いからだ。「マイスター制度」も創設した。これは定年を迎えても、その優れた技術を生かし、次世代に継承していくため、希望者に働いてもらうというものだ。その中から北九州市が創設した、優れた技術者を表彰・顕彰する「北九州マイスター」に組立課の本永英機氏が選ばれている。

オーダーメイドと 納入後のアフターケア

植田製作所がシェアトップ

を誇る秘密はどこにあるのだろうか。

「このリールというのは金属加工会社ごとに異なるんです。自動車のボディ、飲料缶などそれぞれに同じ工作機械は使えません。ですから会社ごとの特注品になります。当社は、大型から小型まで対応しています。もう一つは、納入後のアフターケアですね。マイスターの本永さんなど、オーバークールなどで台湾やタイなどから指名がかかるほどです」

鋼板を巻き取ったあと、心棒となるドラムの径を変えて鋼板のリールを抜く。径を変えるためにドラムは4分割されており、この分割面が均一でないと、この分割面が歪み無く鋼板のリールを抜き取ることができない。

「この面の研磨は手作業でしかできないんです。コンマ数ミリの皮膚感覚で捉えます」。ここではマイスター制度の技術継承が生かされている。口で伝えることは難しく、作業を通じて体で覚え伝えていくしか方法はない。

技術の向上と継承が 製造業の生き残る道

同社はほかに、モーターの回転速度を調整する「減速機」や加工用の鋼の薄板の両端を切断する「トリンマー」なども製造している。またこれまで製造していた大型歯車を材質別に溶接して製造する技術も開発した。これにより歯車の軽量化を図ることができた。

また、従来仕上げの加工を外注に出していたが、平成27年に自社で加工ができるように五面型マシニングセンターを導入した。これによって、段取りと加工時間が20%以上短縮でき、省エネが30%以上も図れるなど経費の削減と新たな技術の開発を可能としている。

数年前に、小学校の教科書に植田製作所が紹介されたことで、小学生の工場見学が行われるようになった。「昔、見学したことのある子供が、いま当社で働いているんです」と濱小路社長は、技術の継承の大切さを熱く語った。